

## 不思議な縁

古代インドが起源とされる盤上遊戯チャトランガがいくつかのルートをたどって世界各地に伝えられ、ヨーロッパ方面に広がって西洋チェスになり、陸路のシルクロードを経て中国から伝わったとされる日本の将棋。それぞれのルールや使用する道具は違うものの、知的な競技として多くの人に親しまれていることに変わりはない。

領主の娘に恋をした 2 人の若者に血なまぐさい決闘ではなくてチェスで勝敗をつけさせたという 15 世紀のヴェネツィアの話になった人間チェスと、太閤秀吉が家臣を将棋駒に仕立てて野試合を楽しんだという話になって始められた人間将棋。同じように戦国時代の話にならない、今年 50 周年を迎えた人間チェスと来年 50 周年を迎える人間将棋だが、まさか同じようなイベントがほぼ同じ時期にイタリア北部の小都市マロスティカと天童で始められていたとは、だれも夢想だにしなかったに違いない。不思議な縁で結ばれた両市が姉妹都市になったのは、必然の結果だったと思わずにはいられない。

人間チェスは、会場となる古城の歴史的な趣、千人を超える出演者と裏方、豪華な衣装や当時をほうふつとさせる女性の髪型などが忠実に再現され、中世のイタリア社会は斯くばかりかと錯覚を起こさせるような、まさに壮大な戦国歴史絵巻である。チェスの前後には、この日のために何か月も前から練習したような息のぴったり合ったダンスや旗振りなども披露され、夜 9 時から 2 時間のイベントにもかかわらず途中で席を立つ人もなく退屈させない演出が見事である。

終了後には、盤上で出演者と訪問団との記念撮影も許され、近くの特設会場で催された手作りの歓迎会には前市長と夫人を含め多くの市民も参加して夜遅くまで交流を深め合った。翌日の昼食会や天童賞の贈呈式なども含め、言葉が通じないというハンディキャップを乗り越えた、有意義な交流ができたものと考えている。

## 今度は主人と・・・

「ボンジョルノー！」イタリア語のレッスンから旅が始まった。早朝にもかかわらず、皆んな元気に初歩の挨拶をマスター。いざ、あこがれのイタリアへ・・・。

ローマの街・バチカン、夕食のカンツォーネディナーは言葉が理解できなくても楽しめた。花の都フィレンツェ、水の都ベネチアと歩いた歩いた。そしていよいよ、マロスティカの人間チェス鑑賞へ、持参した浴衣を着て向かった。予想を遥かに越えた、総勢 850 人ものストーリーのある素晴らしいショーだった。美男美女の多いこと。終了後は、出演者の方々と記念写真へ。浴衣のお陰で、モテモテでカメラにおさまった。

楽しいメンバーと御一緒させて頂き、又、お天気にも恵まれ心に残る旅となりました。皆様には大変お世話になりました、有難うございます。帰ってきたばかりですが、又行きたいとすぐに思いました。20 周年の姉妹都市訪問には、是非主人と・・・。

## イタリアの風に包まれて

幼き日、童話の中での、お姫様の世界が、そこにありました。

マロスティカ訪問では観光案内などでは見ることの出来ない、素晴らしい15世紀ヴェネツィア共和国のお話を全市民総出で再現。自国の先祖が築き上げ守ってきた歴史を、余すことなく私たちにを見せてくださいました。またいろいろな遺跡を訪ね歩き、その時代に生きた人々の息吹を遺跡の中に感じ、私自身その時代に戻ったような風に包まれしばし時を忘れるようなそんな時間を過ごすことが出来ました。

なぜ全世界の人々がヨーロッパにあこがれと夢を託すのか？今回イタリアを旅して肌に感じたことは、そこで暮らす人々が自国の民族に誇りを持ち素晴らしい文化と歴史を自分たちの手で守り、世界中の人々にそれを伝えようとしていることを感じました。

自分の人生の一ページに素晴らしい人たちと素晴らしい旅、それを与えてくださった夫と家族、そして周りのあらゆる人に感謝です。有難うございました。

## 初めての海外、感動のイタリア

今回のイタリア・マロスティカ市訪問団への参加は、私にとって初めての海外旅行となりました。しかも初っぱなからイタリア語圏です。また、出発前の結団式では、国際交流協会マロスティカ委員会委員長の村山さんから、イタリアではひったくりやスリなどが横行し治安が悪いので十分注意するようおどかされ、不安先行の旅立ちとなりました。

でも、ローマやフィレンツェ、ヴェネツィア、ミラノの各都市で歴史を感じさせる建造物群や芸術作品に触れ、そこには出発前の心配はどこへやら、わくわくしている自分が居ました。今では、もっとじっくり見たかったなどと、勝手なことを思っています。

また、マロスティカ市では天童市と姉妹都市締結のきっかけとなった「人間チェス」も観賞することができ、目の前で繰り広げられる中世絵巻に感動してきました。しかし、いかんせん台詞は当然イタリア語、理解できたらもっともっと楽しめたのに残念です。

帰国してからは、イタリア関連のテレビ番組を見ることが多くなったようで、「あ、あそこは歩いてきた場所だ。」などと一人で悦に入っています。機会があればまた行ってみたいなと思っています。

団員の皆さんにはいろいろな場面でお世話になり、本当にありがとうございました。

## すばらしい旅、マロスティカの夜

初めてヨーロッパ旅行にいったのが夢のようでした。

夢が叶い、ローマのトレビの泉、真実の口、そしてコロッセオの壮大な遺跡をみて、ヴチカン博物館のすばらしさにはビックリしました。映画「ローマの休日」のオードリー・ヘップバーンの気持がわかるようなローマの一日でした。水の都といわれるベネチアは強く印象に残りました。サンマルコ広場のにぎわい、ゴンドラからみた昔ながらの街並みなど心に染みる光景でした。(ドブ臭かったけど)マロスティカの間人チェスはすばらしいの一語につきます。夜を徹して催す、すばらしいパフォーマンスは観る者の感動を誘いました。13,000人市民が一体となつての大パレードに感激し、寒さを忘れる楽しさでありました。

楽しい旅をありがとうございました。

## 人間チェスとイタリア

日本国天童市の人間将棋と、イタリア・マロスティカ市の人間チェスとの姉妹都市締結15周年記念事業に参加して良かったと思っております。すばらしい人間チェスを鑑賞し、また歓迎夕食会そして市長さんと一緒に交流会、感激の楽しい時間を過ごすことができました。

今度は、マロスティカの市民の皆様から日本一の将棋の街天童に来ていただいて、桜の下、日本の花見をしながら人間将棋を観てもらい、楽しい交流会をする日が来るのを待っています。

イタリア周遊もすばらしいものでした。特にイタリアの芸術に詳しい横山成典さん(一緒に訪問した)の説明を車中で聞いてから見に行った美術の世界。私は最高の幸せを感じました。ルネッサンスの巨匠ミケランジェロ、ラファエロ、ダヴィンチ。彫刻、絵画、壁画、広大な天井画に賞賛の声を上げ、ルネッサンス様式の聖堂、寺院の建築物、彫刻で飾られた外観、聖堂を囲むステンドグラスの美しさに驚嘆してきました。

天童市民ももっと祭りに関心を持ってより良い魅力ある人間将棋に育てていきたいと思ひます。

## マロスティカ訪問団に参加して

人間チェスの観賞と、マロスティカ市との交流を目的に初めて訪問団に参加させていただきました。古代の音楽、踊り、旗振り等を交えた、2時間半くらいでしたが、人間チェスの展開は飽きることのない素晴らしいものでした。

また次の日の昼食会では、片言のイタリア語ですが市長さんとお話する機会がありました。有名なジロ・デ・イタリアのコースの一つとなっていることから、ロードレース関係の写真展示コーナーがあり、市長自ら説明して案内していただき、大変感激しました。

夕方の交流会では、今回の訪問の記念品等を一人一人に手渡していただきました。ただし残念に思ったことは、地元の一一般の市民や若者と交流する機会があまりなかったことです。

今回の訪問で、マロスティカ市の関係者やイタリアの人たち、またこのツアーに同行した仲間や色々な方々と、知り合い接することができました。この経験をこれからの国際交流に活かしていきたいと思います。

## マロスティカ訪問とイタリア周遊8日間

静岡県に住む私が山形県天童市主催のこの旅を知ったのは、本当に偶然のことでした。私はちょうどこの旅が募集されていた時期に、偶然天童市とマロスティカの姉妹都市のこと、人間将棋と人間チェスという祭りがあることを知り、インターネットで色んなサイトを飛び回って、たまたまやってきた先が『マロスティカ訪問とイタリア周遊8日間』の旅の募集ページでした。このときちょうど大学で卒論のテーマ決めにも迫られ、さらに9月にイタリア旅行に行こうと思っていた私にとって、イタリア各地を周りながら同時に人間チェスも見られるというこの旅は絶好の機会でした。

他県からの飛び入り参加ということ、初の海外旅行ということで初めは不安もありましたが、実際に天童のみなさんと出会い旅をはじめ、当初の不安はあっというまに消えました。そしてイタリアで美しい街並みや歴史ある建物、美術館などを次々と目にし、おいしい料理をおなかいっぱい食べ、とても楽しい8日間の旅をすることができました。最大の目的であった人間チェスも、想像以上に壮大で優雅で、感動しっぱなしでした。また、共に旅をしたみなさんには世代、土地を越えた様々な話を聞かせていただき、心に残ることがたくさんありました。思い起こせば本当に素敵な思い出でいっぱいです。この旅に知り合えたことはとても幸運だったと思っています。

## 感嘆・感動、感謝

イタリアには初めての旅行であり、感嘆の感動の連続の8日間でした。まさに Seeing is believing そのものでした。

まず、中世の古城が山頂とその麓に残る会場での人間チェス。夜冷えの中ではありましたが「平和・非暴力・将来への希望」をテーマとする歴史的ロマンの壮大なスペクタクルに酔い知れてしまいました。友好都市として、当地の市長を始め、心のこもった最大級の歓迎と饗応には、頭の下がる思いでした。

各地の美術・彫刻は人間の精神と肉体の調和をそして人間性の解放を求めたルネッサンス文化の真髄を、また古い遺跡の数々は悠久の歴史を学ぶ好機となるよう努めました。

「真実の口」では身の潔白を証明することができましたし、ベネチアでは、楽士つきのゴンドラに乗る幸運に恵まれ、行くときの機内では、台湾とオーストラリアの人と交流する機会を持つことができました。

石造の文化を堪能しつつも、石畳を長く歩くことで、足の痛みがつかったです。高所から俯瞰する体験もできる時間が欲しかったと思います。

気力と体力を維持・向上させて、トレビの泉にコインを投じた御利益がありますようにと祈っております。

8日間をともに過ごした天童市の議会と行政の当局の方々、商工会議所とマロスティカ委員会の方々、JTBの添乗員さん、そして、同行の皆様へ限りない感謝を申し上げます。

## 会話ができれば尚、楽しい旅に

マロスティカ、天童市民の何割の方がご存知なのでしょうか？私は天童へ来て5年になりますが、幸運にも今回訪問団として参加させていただきました。前回の時は、母と主人が参加をして、大変感動して帰って参りました。今回は、父と二人での参加です。

イタリアが初めての私は、ローマや、ベネチア、フェレンツェなど、素敵などころばかりで、感動の連続でした。当日は夕方から、マロスティカに入りました。おいしい夕食もそこそこに、会場へ移動です。寒い寒いとは聞いていましたが、やっぱり寒かったです。私たちは浴衣で観賞しましたが、なれている方はちゃんと、ホッカイロを入れて、着込んでいました。いよいよ、人間チェスの始まりです。多くの観光客でいっぱいのが暗くなります。「来るぞ！来るぞ！」オイルらしき匂いが鼻をつきます。シュバ！見事に火の矢が命中です。チェス盤が幻想的に浮かび上がります。ファンファーレがなり、ショーの始まりです。中世の衣装に身を包んだ市民の方が、次々とお城から出てきます。そのお城とは最近までちゃんと、市役所として機能していたそうです。山形でいえば、旧県庁前広場でのイベントといった感じでしょうか...学芸会の大道具とは違い、本物から出てくる迫力、感動がありました。その衣装の中には自前の方が多く、皆このお祭りに参加したくているのだそうです。天童はどうでしょうか？私は今回、フランス料理は、フェレンツェ料理であることを知りました。そうです、あの、メディチ家の方がフランスに嫁ぐ際に毒殺されぬようコックを連れて行ったことから始まったと知り、びっくりしました。確かに「イタ

リア料理は？」と、聞かれたら、パスタ、ピザ、と答える方が多いと思います。ところが、ここ、マロスティカでご馳走になった本当のイタリア料理とは、本当に綺麗でおいしくて、素晴らしいものでした。翌日の交流会では、市長をはじめ多くの方が歓迎してくださいました。市長の挨拶の中に、「天童市長の姿がないことが残念だ。」とありました。聞くところによりますと、まだ一度もイタリアには訪問されていないとか...残念でなりません。

マロスティカ市に入る道路沿いには、きちんと「TENDO ( JAPAN )」と看板がありました。天童にはありますか？交流会なのに、ほとんどが、「初めまして」でいいのでしょうか？毎回毎回、ただ訪問団を募って訪問するだけのイベントでいいのでしょうか？交流会に参加していて私は、まったく言葉も歴史も勉強せず、単なる旅行と考えて参加していたことが恥ずかしくなりました。次回訪問される方は、簡単な会話など勉強してから行かれるともっと楽しくいけると思います。これも私の希望ではありますが、ツアーで行けるイタリア旅行はたくさんあります。友好都市だからこそ楽しめるような企画、時間配分を強く希望いたします。少なくとも、もう半日マロスティカを堪能したかったです。

ともあれ、皆事故、怪我もなく予定通りに帰国でき、何よりでした。この誌面を借りて、安喰さん、阿部さん、本当にありがとうございました。

## ピバ！ イタリア

出発2～3日前から期待と不安・プレッシャーで胃の調子が今一つ。おまけに歯がうずき始めて主治医に緊急用の薬を処方して頂き、ついでに念の為とお粥・味噌汁を詰め込んでいよいよJL445便はローマに向けて飛び立ったのでありました。

JL機はおよそ14時間かけてローマ国際空港へ到着しました。

ローマは、田村ご夫妻からとても美味しいエンプレツリがあると言われたBARで始まり、市内を駆け足で観て歩いたにもかかわらず、あまりのすばらしさに圧倒され、高揚したまま夜にはまさかのカンツォーネスターでデビュー！

翌日はあこがれのフィレンツェへ。水の都ベネチアではアコーディオンとカンツォーネ付のゴンドラ遊覧の醍醐味を味わいました。ロマンティックな気分も束の間、バスはホテルにとって帰り、正装に着替えいよいよマロスティカへと向かったのであります。ローマもフィレンツェも知識を詰め込んでから、もう一度ゆっくり来たいところです。

市の人口13,000人、人間チェス出演者とスタッフで1,000人、観客6,000人と数字を聞くだけでビックリ！中世当時の衣装をまとった美男美女の時代絵巻は、2時間半という時間を感じさせないほど素晴らしいものでありました。なかでも、若い歩兵達の一糸乱れぬ演技には好感を覚えました。

翌日マロスティカ市の訪問団歓迎昼食会の後、場所を変えてセレモニーが開催されました。席上市長より「伝統を守るだけではなく、姉妹都市との交流の為に人間チェスがある。皆さんと話し合いが出来ないのが残念、今後はインターネットを活用したり若者達の交流を検討したい」等々のお話がありました。

姉妹都市交流について一会員として感じたのは、交流のあり方が問われているような気がしました。



## 感激の再会（マロスティカにて）

このたびのマロスティカ訪問の旅に参加させて頂き誠に有難うございました。

おかげさまで9年振りに、マロスティカ市に存在するアンジェロ・オスティさん一家と再会することが出来ました。

それは歳月の経過を超越して、おたがいに「アンジェロ」、「とよあき」と呼び合い、抱き合い、頬摺りをするという感激の再会でした。また、ご子息エルマノの身長が倍くらいに伸びていたのに驚きました。15才になったとのこと。

いずれにしても、天童市国際交流協会と天童市の皆様のご好意で、この旅行に参加して数年来の夢を実現できたことを哀心より感謝申し上げます。

マロスティカを訪問して、地勢的にも天童と類似していると感じを受けたことを補記しておきます。

## 4年ぶりの姉妹都市訪問

今回、天童市姉妹都市締結15周年記念事業マロスティカ市訪問に参加して感じた事は、4年前に、訪問した時も同様に感じたことですが、市民が一丸となって人間チェスを行う姿勢と誇りが、すばらしいと感じました。

市長様始め、市の役員がボランティアで姿勢を行っている中、2年おきとは言え、この様に大勢の観客をよべる人間チェスは、とてもすばらしく、天童の人間将棋もこの様に出来たら、全国から観光客をもっとよべる事業になると思いました。

イタリア国内の周遊も、4年前の日程よりも緩和されていて、とても良かったです。美術館の作品も修復されていて、スフォルツエスコ城のミケランジェロ作「ロンダニーニのピエタ像」も日本の和紙を利用して汚れを取ったと聞いて驚きました。

今回の訪問団は、病気・ケガ等もなく、皆な和気あいあいで、楽しくいい旅が出来ました。

## どこを見ても感動の連続

友人から「イタリアに行かない？」と言われた時は、あまりの突然だったので返事が出来ませんでした。でも一生のうちにイタリア旅行に行きたいと思っていたのでこれはチャンスだと思い申込みに行ったら最後でした。

今日は待ちに待った9月7日出発の日です。集合が4時です。前夜眠れませんでした。市役所の方々に見送られ成田空港へ。モスクワ経由でローマに着きました。バチカン美術館、トレビの泉。真実の口、何処を見てもすばらしい感動するばかりです。水の都ベネチア市内観光、ゴンドラで遊覧。いよいよ人間チェス、マロスティカへ向かいます。城壁と時計台に囲まれたチェスの会場はおとぎの国に行った様でした。華麗な中世の衣装を身にまとい出演者の多い迫力ある演技には感激、3時間があっという間でした。最後にお城の上からのナイヤガラ花火で閉幕。私は思い出に孫にチェスを買ってきました。本当に何事も無く参加でき、すばらしい思い出を作ることができて本当にありがとうございました。

## 壮大なるかな人間チェス祭り

有名なシェイクスピアの「ベニスの商人」やキャサリン、ヘップバーン演ずる名作映画「旅愁」の舞台の水の都ベネチアのロマンチックな通路が生活廃水でドブ川のような悪臭から逃れて、一路目的地マロスティカへと向かった。

市に近づく途中道側の標識の前で我らがバスが一時停止。なんとマロスティカ市の姉妹都市、ブラジルの市と「TENDO ( JAPAN )」と書いてあるのに大感激。

やがて小高い山嶺に長い城壁のある城跡が見えた。その小山の中腹にあるレストランまで登り夕食をとる。20時半頃、我らがバスは又山麓まで下り、小さく残る市役所として使われている城の裏の広大な人間チェス会場に着く。市長はじめ幹部職員の出迎え。「ゆかた姿」の我らの女性勇士たちが大モテ。大会場を三方に囲む檜に組んだ段階式客席約6千個の一部の席背に(TENDO CITY)と書かれた紙が貼られているのにうれしい驚き。

午後の時になると同時に、開会宣言と思わせる言葉が一言。そして「グラチェ」とアナウンスが。とすぐに周囲の照明が消えた。「オオ」という驚きと期待の声があがる。暗闇の中にタワーベルと鼓隊の音。1人の騎馬武者がたい松を片手に城内から、そして大きな旗を持った中世のナイトが1人進み入り、チェス版中央に。とチェス板の片隅から火のラインが走りすっかり囲んでしまった。すると再び照明の点燈。と両側から相当数の市民た達それぞれの特徴を表す衣裳といろんな用具を持ち運び会場に入り。ダンサー達が入り舞う。それぞれが旗を持ち巧みにあやつる兵士たちの演武等々。チェス対局前の光と音楽と何百人たちの行進と演技。そのオープニングセレモニーと対局。その後の行事にすっかり魅せられた時間余りにうなる。

これでは我が天童の人間将棋は足下にも寄り着けないなあと関心と落胆の溜息。

市民全体が一つになって行う歴史ある行事への誇りと自信を如実に表しているものの違いだなとつくづく思った。

## ブオンジョルノ

天童市とマロスティカ市の姉妹都市15周年の節目の年にイタリア8日間の旅に参加出来た事は私にとって最良の記念すべき旅でした。

ローマへ直行して翌日、12～15世紀ルネッサンス・バロック調の建造物の驚き又ミケランジェロ、レオナルドダビンチ等々沢山の壁画に興奮の連続でした。

この度のクライマックスは国際交流のマロスティカ訪問です。人間将棋と人間チェスの共通点はと期待に胸ふくらませていました。チェスの試合を始める前後にデモンストレーションの演技があり、6・7百予人の出場者は中世期の衣装に身を飾りコウモリの進行役、村人の行列、祝のパレエ、大きい旗の演技、守備隊の行列に見守られてのチェスのゲームでした。2時間近く幻想的大パノラマの中にすい込まれました。終了後出場者とのスナップ写真もとらせてもらう事も出来、大満足の一夜でした。帰国後もう一度ガイドブックを読返し歴史の深さと魅力あるイタリアへもう一度旅したい!!と思うのは私だけでしょうか? グラッツェ。